

## 金沢大学保健管理センター健康科学部門 自己点検評価報告書

### 1. 金沢大学保健管理センターのミッションについて

金沢大学保健管理センター規程第2条により以下のように定められている。

センターは、金沢大学（以下「本学」という。）における保健管理に関する業務を行うとともに、保健管理に関する教育研究を行うことを目的とする。

### 2. 金沢大学保健管理センター健康科学部門のミッションについて

金沢大学保健管理センター部門細則第2条により以下のように定められている。

1. 定期及び臨時の健康診断及びその事後措置に関すること。
2. 健康相談及び健康指導に関すること。
3. 精神衛生に関する助言相談に関すること。
4. カウンセリングに関すること。
5. 保健管理に関する調査及び研究に関すること。
6. 安全衛生管理に関すること。
7. 衛生環境及び感染症対策の指導に関すること。
8. 修学上のハラスメント対策の指導に関すること。
9. 健康教育の企画及び実施に関すること。
10. その他学生及び職員の保健管理について必要な事項に関すること。

### 3. 業務について

保健管理センター健康科学部門（以下 本部門）では、医師、心理職及び看護職が連携し、ミッションに掲げられた業務を滞りなくこなしている。近年の傾向としては、メンタルな問題を持つ事例が増えており、本人よりも教員、家族（親）からの相談が寄せられることが多く、学生本人、友人、教員、親の関係調整を多面的に行う機会が増えている。本部門では、学生のメンタル不調に対し、心理職、看護職、医師が連携し、学内の諸部門、外部医療機関、公的な支援機関等と連携を保ちつつ問題解決に当たっている。また、留学生の増加に伴い、感染症に対する対応を求められる機会が増加している。本部門には、医師、心理職に米国留学経験があり、英語でのコミュニケーションが可能な教員を配置しており、留学生の心身の相談に対応しており、本学の進める SGU 事業に対応できる体制にあると考えている。その他、本部門は全学における労働安全に関わる業務に産業医、産業保健師として参画しており、教職員の健康維持管理にも、貢献をしている。本部門の業務としての実績は通巻 42 号（2015 年 3 月）

となる年報・紀要にまとめ、公表している。

#### 4. 教育及び研究

##### (ア) 教育

本部門においては、心身の健康を維持するためには、予防教育が必要との観点のもとから、積極的に共通教育における教育活動に携わってきた。平成19年度から4年間にわたり健康科学部門が中心となって本学が実施した「国公立大学を通じた大学教育改革の支援 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援 GP）」の中で、開発されたプログラム群を、正課教育、正課外教育に組み入れた。以下にその概要を列挙する。

##### 1. 大学・社会生活論「健康論-健康生活のすすめ」

「大学・社会生活論」の中の1コマとして、すべての学類（医学類、保健学類は独自科目）で実施されている導入科目で、大学生活における健康管理の注意点について、心身両面から講義をしている。特に、健康診断、学生相談などの仕組みについても解説をしており、困った時の相談窓口を学生たちに教えるなど、知識だけでなく実践力の習得を目指した指導に努めている。

また、健康論の補助教材として、eラーニング教材を作成し、ポータルサイトで公開している。Eラーニング教材の項目は、以下のとおりである。

1. 健康論 1-タバコの害
2. 健康論 2-健康診断の読み方
3. 健康論 3-熱中症
4. 男性・女性のからだのこと～健康で充実した人生のための基礎知識～

##### 2. 正課教育科目 共通教育科目

1. 健康論実践A－生活習慣病予防を食事から考える－ [Practical Approach for the Health A] 時間割番号 70160 前期前半 1単位
2. 健康論実践B－救急蘇生と安全な大学生活－ [Practical Approach for the Health B] 時間割番号 70161 前期後半 1単位
3. 健康論実践C－自己発見のためのグループワーク－ [Practical Approach for the Health C] 時間割番号 70162 後期集中 1単位
4. 健康論実践D－生活習慣病予防を食事から実践する－ [Practical Approach for the Health D] 時間割番号 70163 後期集中 1単位
5. 健康論実践E－人間関係トレーニング－ [Practical Approach for the

- Health E] 時間割番号 70164 後期集中 1 単位
6. 健康心理学 [Health Psychology] 70130 前期 2 単位
  7. 心と体の健康 [Neuropsychological Approach for Total Health Promotion] 時間割番号 71402 後期 2 単位
  8. 基本の調理 [A Beginner Course in Cooking Practice] 時間割番号 71401 後期前半 実習 1 単位

以上の講義群は、共通教育特設プログラム「健康・自己管理」のA群を構成する科目となっている（基本の調理はB群）。これらの講義は、学生にも人気が高く、例年、抽選等により受講者を選択している。

### 3. その他の正課教育科目

1. 学校教育心理演習C (パーソナリティ心理学) [Seminar in Educational Psychology C(Personality Psychology)] 時間割番号 21173 後期 2 単位
2. 教育実践基礎研究 [Basic Research in Educational Practice] 時間割番号 221001 前期集中 2 単位
3. 連合小児発達学研究科 運動生体管理学 2コマ/15担当
4. 日本語・日本文化研修プログラム 日本文化演習 I 1コマ/15担当

### 4. 正課外科目

学生支援プログラムとして以下の企画を提供している。

1. 食育プログラム
  - (ア) 野菜たっぷり簡単朝食スープ試食会
  - (イ) 加賀野菜を使ったおもてなし料理教室
  - (ウ) 加賀野菜を使ったお菓子作り教室
  - (エ) 和菓子作りと抹茶で金澤体験
  - (オ) 金澤食文化体験 握り鮓教室
  - (カ) クリスマスケーキを作って食べよう
2. 自分を見つめるプログラム
  - (ア) 性格検査で自己分析
  - (イ) ストレスマネジメント&セルフケア
3. 運動プログラム

- (ア) 心と体を整えるヨガ（年 4 回開催）
- 4. 学生のための音楽鑑賞
  - (ア) サマーコンサート
  - (イ) クリスマスコンサート

以上の教育に関する事項に関しては、平成 26 年度実施金沢大学認証評価結果においても、以下のように評価されている。

「平成 19 年度文部科学省学生支援 GP に採択された『心と体の育成による成長支援プログラム-社会に幸せをもたらす生活の知恵を持った学生の育成-』で開発した講義群を共通教育特設プログラムとして発展させるとともに、学生支援プログラムとして継続して実施している。」

これらの教育科目の背景には、心理学・神経科学の要素を取り入れ、体験・実習の要素が半分を占めるように配慮されており、これからの時代を切り拓く学生たちが身に着けるべき教養にふさわしい内容となっている。

#### 今後の課題

本学が Super Global University (SGU) の指定を受けたことから、共通教育科目は国際基幹教育院に移行され、新たに Global Standard (GS) 科目が新設され、我々が行ってきた講義群は一旦終了することになっている。その中で、「大学・社会生活論」における「健康論」は必要性が認められ、これまで通りほぼすべての学類に向けて開講の予定である。しかし、共通教育特設プログラム「健康・自己管理」は 4 学期制に合わせて開講する一部を残し、共通教育特設プログラム「健康・自己管理」の一部の内容は、GS 科目「健康科学」に移行することになっており、来年度からの講義内容の検討が課題となっている。また、近年、コミュニケーションが苦手な発達障害の傾向を持つ学生が増えており、本部門が実施してきた心理関連の座学と実習（食育）を連結させた講義群、脳科学に関する座学と実習を取り入れた講義群は継続が必要と考えている。

#### (イ) 研究

当部門では、昨今のメンタルヘルスに問題を抱える学生への対応のために、学生の抱える問題の背景にある脳機能の評価と対応のため以下の課題に取り組んでいる。近年、少子化、晩婚化が進み、大学生にキャリアプランだけでなく、生涯にわたるライフプラン教育の必要性が求められている。我々は、この点に関し、

厚生科研を得て、若い男女にライフプランを身につけさせるための方策を検討し、成果物を公開している。その一部は、本学の健康論のeラーニング教材としても利用されている。以下に過去5年以内の外部資金獲得状況を示す。

1. 吉川弘明：平成27年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究B「メンタルヘルスにおける自律神経機能と自己抗体の関与-香り効果に関する前向き研究」平成27-29年度：研究代表者（研究分担者：足立由美，小笠原知子）
2. 吉川弘明：独立行政法人 科学技術振興機構（JST）A-STEP探索タイプ『ナノファイバー技術を用いた自己抗体の新規スクリーニングシステムの開発』（研究代表者）平成26-27年度
3. 吉川弘明：厚生労働科学研究費補助金「若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する研究」班・研究分担者（研究代表者：山本眞由美）平成25-26年度
4. 吉川弘明；厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「母子保健事業の効果的実施のための妊婦健診，乳幼児健診データの利活用に関する研究」研究分担者（研究代表者：山縣然太郎）平成24-25年度
5. 足立由美：平成21年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究B「大学生に対する心と体の統合的成長支援プログラムの実証的研究」（研究代表者）平成21-24年度

学生相談，保健管理以外の研究活動

教員のそれぞれの専門性を生かした研究として以下の課題を進めている。

6. 清水美保：平成26年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究C「腎疾患におけるリゾリン脂質産生酵素（ATX，PS-PLA1）の臨床的意義の解明」研究代表者 平成26-28年度
7. 吉川弘明：平成26年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究C「神経型アセチルコリン受容体を標的とした自己免疫性神経疾患」研究代表者 平成24-26年度
8. 吉川弘明：厚生労働省・難治性疾患政策研究事業『エビデンスに基づいた神経免疫疾患の早期診断基準・重症度分類の確立』班・研究分担者（研究代表者・松井真）平成26年度一継続中
9. Hiroaki Yoshikawa: NIH/NINDS MGTX study, Principal Investigator of Kanazawa University 2005-継続中

10. 吉川弘明；厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 免疫性神経疾患に関する調査研究（分担研究者）平成 11-25 年度

## 5. 組織及び運営

### （ア）組織

1. 平成 27 年度 4 月 1 日の時点で、健康科学部門には医師 3 名、臨床心理士 2 名が配置されていた。本学の SGU 事業に対応するため、平成 27 年 10 月 1 日に、米国内の心理学系大学院で教育を受け、英語での対応が可能なカウンセラーが着任した。医師にも米国留学経験のある教員が 1 名おり、カウンセラー、医師ともに英語での対応が可能であり、また海外での教育事情に関して理解できる者が配置されたことになり、本学のこれからの発展を支援していけるものと考えている。

### （イ）運営

1. 保健管理センターの健康科学部門とスポーツ教育部門の教員会議が、隔月で開催されている。
2. 健康科学部門会議が隔月で開催され、安全衛生活動などの必要案件の検討を行っている。
3. 学生相談に関わる教員により、毎週、学生のメンタルヘルスに関する事例の検討と教育に関する事項の検討を行っている。
4. 看護師・保健師等との事案検討、予定確認などは毎日行い、業務が支障なくできるよう運営している。
5. 学生ボランティア組織「学生クルー」を指導、監督し、学生たちの成長の場、地域との交流の場として学内外で周知されるようになってきている。
6. 産業医活動として、3名の医学系教員が角間地区、宝町・鶴間地区、附属病院、平和町地区を分担し、本学の安全衛生活動の一部を担っている。
7. 入試における医務室業務：本学で行われるセンター入試、各種入試において、医務室業務を医学系教員、看護師・保健師が担当している。ここ数年になって、入試の回数が増加しており、そのため看護師・保健師が平日に代休をとる必要があり、保健管理センターの日常業務への支障が出ないかが懸念されている。
8. FD 活動の講師担当：心理職教員が、各学域・学類における FD 活動の講師を務めている。

## 6. 施設及び整備

### (ア) 施設

1. 保健管理センター本部（角間キャンパス本部棟 1 階）、保健管理センター南分室（角間キャンパス自然科学研究棟地下二階）、保健管理センター宝町分室（宝町キャンパス）が設置されている。学生相談件数の増加に伴い、これまで本部に 2 室、南分室に 2 室あった相談室に加え、平成 27 年度、本部のレントゲン撮影装置撤去に伴い、本部に 1 室増設することができた。

### (イ) 整備

1. 学生・職員の体調不良に対応するため、休養ベッドが本部に 2 床、南分室に 2 床、宝町分室に 1 床確保されている。
2. 学生・職員のセルフケアを促すため、本部、南分室、宝町分室には、血圧計、視力計、身長体重計、体内組成計（体脂肪率の測定が可能）が配置されている。
3. 学生の心身のデータの把握と、効果的な指導に生かすため、健診データ、日常処置データ、カウンセリング記録を保持した健康管理システムが運用されており、本部、南分室、宝町分室のいずれにおいてもクライアント PC を介して、サーバにアクセスすることができるようになっている。

## 7. まとめ

(ア) 保健管理センターは、結核が流行した時代に、肺結核を早期に発見し就学における障害を最小限にとどめるための施設として設置された経緯があるが、現在ではメンタルヘルス対策の拠点、予防としての健康教育の拠点となっている。この変化は社会のニーズに対応して、自ずと求められたものであり、当センターは適切に対応ができたと考えている。特に平成 19 年度から 4 年間にわたり取り組んだ「国公立大学を通じた大学教育改革の支援 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援 GP）『心と体の育成による成長支援プログラム-社会に幸せをもたらす生活の知恵を持った学生の育成-』から発展した講義群、学生支援プログラム群の形成は大きな成果であった。

(イ) 一方、従来からの医療・保健的なサービスは滞りなく実施されていることは目立たないことではあるが、本学の業務・活動を陰で支える業務として評価されるべきものと考えている。特に留学生の増加に伴い、結核などの感染症への対応が再度必要になっており、本学における健康管理の拠点としての使命も再度認識され、期待されている。今後は、健康教育、メンタルヘルス対策、健康管理の 3 つの使

命を遂行するとともに、これらに関連した研究のさらなる進展が重要になってくると考えている。

2016年3月

## 金沢大学保健管理センタースポーツ教育部門 自己点検評価報告書

### 1. 金沢大学保健管理センタースポーツ教育部門のミッションについて

金沢大学保健管理センター部門細則第2条には、規程第2条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行うとある。

スポーツ教育部門の業務は以下のように定められている。

1. 共通教育科目の身体・スポーツ演習、実技及び講義に関すること。
2. 共通教育機構「身体・スポーツグループ」の運営、同グループ全体の授業計画の策定に関すること。
3. スポーツ教育等の調査及び研究に関すること。
4. 健康教育の企画等に関すること。
5. その他保健体育に関する教育研究及び本学のスポーツマネジメントについて必要な事項に関すること。

### 2. 共通教育科目の身体・スポーツ演習、実技及び講義について

スポーツ教育部門に属する3名の教員は、平成23年度から平成27年度において、主な業務である共通教育の授業を平均年9コマ適正円滑に行った。これらの授業の多くは学生に人気が高く、例年抽選等により受講者を選択している。

主な科目名は次の通りである。「身体・スポーツ実技」「身体・スポーツ演習」「スポーツ生命科学実験・ゼミ」「スポーツの歴史」「ゼミ/サッカー学」「メンタルトレーニング」「身体と運動の心理学」「ゼミ/身体運動心理学」。

その他、スポーツ教育部門に属する教員は学類、大学院の授業も積極的に行った。

### 3. 共通教育機構「身体・スポーツグループ」の運営、同グループ全体の授業計画の策定について

#### 1) 身体・グループ幹事会等の開催

スポーツ教育部門に属する教員は、期間内において、幹事または幹事代表として、共通教育機構「身体・スポーツグループ」の運営、同グループ全体の授業計画の策定などに中心的な役割を担った。

グループ運営のため開催されるグループ幹事会では、グループの予算、授業計画などについて論議がなされた。

## 2) 共通教育特別プログラムへの協力

本学が推進する共通教育特別プログラムに協力するために、身体・スポーツグループは次のプログラムに授業を提供した。「環境・ESD リテラシー」プログラム、「健康・自己管理」プログラム、「歴史から見た世界」プログラム。

## 4. スポーツ教育等の調査及び研究について

スポーツ教育部門に属する教員は、期間内において、以下に示す研究助成金を獲得するとともに、各自スポーツ教育等の調査及び研究を行った。

(北浦孝)

- ・ドーピング規制薬物（アドレナリン受容体作動薬）の影響における分子機構の解明，科学研究費補助金，基盤研究（C），研究代表者，課題番号：21500628，平成 21-23 年度，4,810,000 円
- ・高齢者の水のホメオスターシス（恒常性維持）と高齢者骨格筋のニュー・コンセプト，科学研究費補助金，基盤研究（B 特設分野研究），研究分担者（代表，杉本直俊），課題番号：15KT0003 平成 27-30 年度，400,000 円

(寶學淳郎)

- ・旧東ドイツスポーツ関係者の言説－インタビュー調査を中心に，科学研究費補助金，基盤研究（C），研究代表者，課題番号：23500727，平成 23-25 年度，1820,000 円
- ・1970 年以降のドイツにおけるスポーツ政策の基本方針及び変容に関する研究，澁谷学術文化スポーツ振興財団助成金，研究代表者，平成 26-27 年度，500,000 円

(村山孝之)

- ・「あがり」の発現機序の解明：運動スキルの閉鎖－開放次元に着目して，科学研究費補助金，若手研究（B），研究代表者，課題番号：22700615，平成 22－24 年度，4,290,000 円
- ・プレッシャー下における知覚－運動系，注意，情動の循環的関係の解明，科学研究費補助金，若手研究（B），研究代表者，課題番号：25750289，平成 25－28 年度，4,290,000 円
- ・Quiet Eye トレーニングはプレッシャー下においていかに知覚運動制御の崩壊を抑制するか？，（公財）ミズノスポーツ振興財団研究助成，研究代表者，平成 27 年度，918,600 円
- ・プレッシャー下における運動パフォーマンス崩壊メカニズムとその対処法（Quiet Eye トレーニングを主とした）の確立に関する研究，（公財）澁谷学術文化スポーツ振興財団研究助成（スポーツ活動），研究代表者，平成 27－28 年度，300,000 円

## 5. 健康教育の企画等について

### 1) 集中授業の展開

スポーツ教育部門では、通常の授業以外にも、「野外活動」や「初心者スキー」など集中授業を展開することにより、学生のコミュニケーション能力の向上及び集団生活や五感を通した生きるための教育実践を行い、メンタル不調の予防等に協力した。

### 2) 文部科学省体力テストの実施と公表

文部科学省では、昭和39年以来「体力・運動能力調査」を実施して、国民の体力・運動能力の現状を明らかにし、体育・スポーツ活動の指導と行政上の基礎資料として広く活用している。

本学は文部科学省の依頼を受け、3年毎にその実施を引き受けている。スポーツ教育部門の教員はその立案、実施を行うとともに、学生がその理解を深めるために、結果を分析し、金沢大学保健管理センター年報・紀要においてその結果を公開している。

## 6. その他保健体育に関する教育研究及び本学のスポーツマネジメントについて必要な事項について

### 1) 学内体育・スポーツ施設の管理、運営

#### a. 学生生活部会内におけるスポーツ施設管理運営 WG の設置

平成2年の大学設置基準の変更によって、大学において体育は必修でなくなった。

それにともない、平成6、7年頃から金沢大学には体育施設委員会のような全学的組織が存在していない。

しかしながら、スポーツ教育部門は、そのような全学的組織がなければ、体育・スポーツ施設の老朽化への対応、体育・スポーツ施設の維持、計画的管理などが滞ると考え、平成22年から諸方面に働きかけ、平成23年に先ず学生生活部会内にスポーツ施設管理運営 WG を設置した。その第1回 WG は学長補佐志村先生を座長とし、平成23年12月に開催され、①運動施設の管理、②盗難等、③整備計画などについて論議がなされた。スポーツ教育部門の教員は委員として参加した。

#### b. 学生生活委員会内のスポーツ施設管理運営 WG

平成26年に学生生活部会が学生生活委員会と変更されたことにともない、スポーツ施設管理運営 WG は同年より学生生活委員会のもとに置かれることとなった。同年より、座長は教育担当理事柴田先生となった。スポーツ教育部門の全教員は委員として参加した。

平成26年度第2回スポーツ施設管理運営WGでは①スポーツ施設の計画的な維持・管理の方法について、②スポーツ施設の維持・管理に対する全学的な対応についてなどについて論議がなされた。

#### c. 体育施設管理委員会の設置

スポーツ施設の維持・管理についてはWGでなく、全学的な委員会を設置、対応すべきというスポーツ教育部門の意見に基づき、平成27年10月1日に全学の体育施設管理委員会が設置された。同委員会の座長は教育担当理事柴田先生であり、同年11月に開催された最初の委員会には寶學が委員として参加し、①施設設備の修繕等、②屋内運動場の防犯対策などについて協議した。

## 7. その他

### 1) 学内委員会など

スポーツ教育部門に属する教員は、期間内において、委員として次の学内委員会などに積極的に協力した。共通教育委員会、スポーツ施設管理運営WG委員、国際基幹教育院設置準備室室員（オブザーバー）、学生生活部会委員、学生生活委員会委員、文系センター代議員。

### 2) 学内研究会など

期間内の学内研究会での発表は以下の通りである。

- ・ 寶學淳郎、共通教育特設プログラム・「環境・ESDリテラシー」授業報告、第15回カリキュラム研究会、平成25年3月18日
- ・ 村山孝之、平成27年度「第1回サバティカル研修成果報告会」平成27年6月26日

### 3) 課外活動など

#### a. 北陸地区大学体育大会への協力

スポーツ教育部門に属する教員は、期間内において、毎年開催される北陸地区大学体育大会に役員として、学生部と協力し、その運営などに積極的に協力した。

#### b. クラブ活動への協力

スポーツ教育部門に属する教員は、次の本学クラブの部長、顧問として、積極的に協力するとともに、学生部の主催する顧問会議に出席している。アメリカン・フットボール部、チアリーダー部、アスレチックトレーナー部、サッカー部、ソフトテニス部。

#### 4) 金沢大学教員免許状更新講習（保健体育）への協力

スポーツ教育部門の教員は、金沢大学教員免許状更新講習に保健体育の担当教員として協力している。期間内での協力は以下の通りである。

- ・ 寶學淳郎，学校における体育・スポーツの進め方（平成25年度）
- ・ 村山孝之：運動学習や運動指導を心理学や認知科学の側面から再考してみる（平成27年度）

#### 5) 学会活動など

スポーツ教育部門に属する教員は、期間内において、次のように学会活動を行っている。

##### a.学会活動

（北浦孝）アメリカスポーツ医学会 評議員（Fellow），日本体力医学会 評議員，日本生理学会 会員，日本生物物理学会 会員，日本薬理学会 会員，日本生化学会 会員，日本電気泳動学会 会員

（寶學淳郎）日本体育学会会員（平成23年，平成24年学会誌編集委員），体育史学会会員（平成23年，理事及び学会誌編集委員），スポーツ史学会会員（平成26年，第28回大会組織委員），東北アジア体育・スポーツ史学会会員（平成23年～理事），日本スポーツ産業学会会員（平成23年，24年スポーツ産業史専門分科会幹事），日本体育・スポーツ政策学会会員

（村山孝之）日本スポーツ心理学会 JSSP 会員（平成24年度日本スポーツ心理学会第39回大会事務局長），国際スポーツ心理学会 ISSP 会員，北米スポーツ心理学会 NASPSPA 会員，日本体育学会 会員，日本認知心理学会 JSC 会員，日本スポーツメンタルトレーニング指導士会会員（監事 H26年度～），北陸体育学会会員（理事），運動学習研究会 JMLS 会員，身体知研究会 SIG-SKIL 会員

##### b.学術賞受賞など

- ・ 村山孝之，関矢寛史（2012）スポーツにおける「あがり」の発現機序．北陸体育学会．平成23年度北陸体育学会「優秀研究奨励賞」

#### 6) 学外講演

スポーツ教育部門に属する教員は、期間内において、学外でスポーツ，運動，健康にかかわる講演を積極的に行っている。

#### 7) 学外における社会貢献活動

スポーツ教育部門に属する教員は、期間内において、学外で社会貢献活動を積極的に行っている。

(北浦孝)

- ・石川県アメリカンフットボール協会 理事長（現在に至る）
- ・北陸アメリカンフットボール協会 副理事長（現在に至る）
- ・北陸学生アメリカンフットボール連盟 顧問（現在に至る）

(村山孝之)

- ・日本オリンピック委員会 (JOC) 強化スタッフ (2012～)
- ・日本ソフトテニス連盟医科学委員 (2011～)
- ・石川県教育委員会「科学的トレーニング特別強化事業」科学的トレーニング専門グループ委員 (2009～)
  - ・いしかわグローバルアスリート支援事業医科学スタッフ (トランポリン) (2015)
- ・財団法人 北陸体力科学研究所 評議員 (2010～)
- ・歩育推進ネットワークいしかわ研究調査部会委員 (2012～)
  - ・石川県大学健康教育研究会 (2013～)
  - ・平成 27 年度日本介護福祉学会運営委員 (2015)
- ・北陸学生ソフトテニス連盟会長 (2010～)

## 8. まとめと今後の課題

期間内における共通教育科目の授業の実施及び「身体・スポーツグループ」の運営などは、順調であったと言える。新年度からのクォーター制の導入、困難になってきている非常勤講師獲得などに対応していくことが今後の課題となる。

また、本学のスポーツマネジメントという観点からは、体育施設委員会の設置をみたことがこの期間における重要な成果であったと言える。約 20 年ぶりに復活したこの全学的委員会を軌道に乗せることも今後の課題である。

2016 年 3 月